



TOPICS  
01

ゼロカーボン北海道シンポジウムにて  
パネリストを担当しました

2050年ゼロカーボン北海道の実現に向けて、北海道・自治体や経済界、産業界などによる脱炭素に向けた取り組みが求められています。

今回のシンポジウムでは、最新のゼロカーボンの取り組み事例などを共有し、「ものづくり」から「まちづくり」まで北海道の可能性について参加者とともに考える事を目的に開催されました。

私たちは、このシンポジウムでパネリストを務めるなど、北海道内においてカーボンニュートラルの取り組みを先導していくよう求められています。

私たちはこれからも、環境分野での取り組みや技術の普及活動など幅広い分野での取り組みを継続してまいります。



2022年7月  
パネリストとして登壇

TOPICS  
03

外国人労働者の採用に向けて

少子高齢化・人口減少が続く日本において、外国人労働者の積極的な採用が今後一層求められていくと予想されます。

当社でも、外国人労働者の積極的なインターンシップや受け入れをすることで、ダイバーシティの推進を目指しています。



当社の新たな目標設定では、外国人労働者を含めた「ダイバーシティ率」を設定し、外国人労働者を受け入れるための基盤づくりも進めています。

ミャンマー人技術者(派遣社員)との測量実習

TOPICS  
02

教育施設での環境教育・講義の実施

現在の子どもたちが社会に進出する時には、SDGsの考え方は当たり前になり基盤に根差したものになっていると考えられます。

文部科学省指定事業である「WWLコンソーシアム構築支援事業」のひとつとして、SDGsを主なテーマにしたハイレベルで探究的な学びの研究開発や実践活動の取り組みを行う北海道札幌高等学校にて、建設会社の考えるSDGsについての講演の実施、東京農業大学にて「土と水の科学」をテーマとした講義を実施するなど、将来、地域を支える学生に向けた環境教育等を、作業所での取り組みに加えて積極的に行っています。



2022年7月  
東京農業大学での講義



2022年8月 北海道札幌高等学校での講演

TOPICS  
04

東北地方最大の建設技術展  
EE東北'22に出展しました

東北地方最大の建設技術展「EE東北'22」が開催され、ICT推進部がブース出展しました。

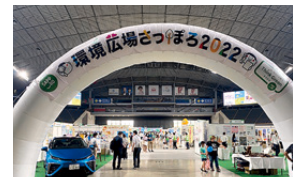
「EE東北'22」は、建設事業に係わる新工法・新材料など時代のニーズに対応して開発された新技術を公開し、その普及を図ることにより、新たな技術開発の促進と、良質な社会資本の整備を通じて、地域社会の発展に寄与することを目的として開催されています。

当社は、VR体験やオンデマンドLTEの紹介などを行い、たくさんの方に新たな建設技術の紹介をさせていただきました。



TOPICS  
05

環境広場さっぽろ2022への  
ブース出展



北海道最大級の環境・SDGsイベント「環境広場さっぽろ2022」が札幌ドームで開催されました。当社は、「夏休み自由研究応援コーナー」と題して、ペーパークラフトの模型を使い、まちづくりを体験する手作りコーナーを出展しました。

当日は、たくさんの子どもたちが自分の思い描いた家やお店をペーパークラフトタウンに並べ、住みたいまちを作り上げていきました。

また、ステージイベントでも、YouTubeチャンネル「シゴトのトビラ」にて、「北24条大橋上部工2」の作業所での橋をつくる仕事や建設業のSDGsについて紹介している様子が上映されました。



TOPICS  
06

「まち未来コンテスト」の開催



「わたしが住みたい未来のまち」をテーマに、小学生を対象とした絵画コンクールを主催しました。

①ひらめく力(アイデア力・大人が予想もしないような柔軟な発想力)、②想像(創造)する力(理想的な未来を頭に浮かべ、言葉とかたちにできる力)、③伝える力(「ひらめき」と「想像(創造)」を第三者に表現する力)を審査のポイントに、子どもたちの自由な発想で描き上げられた作品は、全国から639作品もの応募をいただきました。



2022年12月  
札幌駅前通地下歩行空間にて全作品を展示し、表彰式を開催。2日間で約1800名の方々にお立ち寄りいただきました。

SDGs推進委員会メッセージ



岩田地崎建設が目指す SDGs

「建設事業を通して 様々な社会の問題解決に貢献する」

岩田地崎建設の事業活動である建設事業は、その事業規模や社会的立場づけから、社会と環境全体に及ぼす影響が大きな業種です。

私たちの目標はSDGsへの取り組みや活動をより積極的に展開することで日本の建設業全体が「持続可能な社会の発展へ向け大きく貢献できる産業」へと成長を続けることです。

そのためには、我々一人ひとり、一つひとつの企業の

力だけではなく、多くのお力がSDGsによって束ねられることにより、さらに大きな力で社会的課題の解決につながっていくものと考えています。

2030年までに取り組むSDGsは、今年で半分を折り返したところ。今一度、取り組みを振りかえり、今後どのように進化していくか考えながら、SDGsの体制をより一層強化し、社会課題の解決へ向け挑戦を続けます。